

科学の不定性と巨大科学 高エネルギー加速器を例に

2013

12/20(FRI.)

16:30 - 18:30

共通講義室 4

(東北大学理学研究科合同A棟3階303号室)

科学の言葉で問うことはできても、科学によって答えることができない問題は
トランスサイエンスと呼ばれている。

非常に低レベルの放射能による人体影響などがその典型例である。

このような問題は科学の問題としては時間をかけて少しでも解明できれば良い。

しかし、技術の問題となると、疑問が解明されるまでものを作らない、というわけにはいかない。

ヒッグス粒子を発見したヨーロッパ原子核研究所(CERN)の加速器LHCなど
大型で最先端の装置を作る場合には、
トランスサイエンス的な不定性が現れることが多い。

日本で建設され、小林、益川のノーベル賞受賞に貢献したKEKB加速器を例として、
設計の段階で現れる不定性と、それへの対処法について考える。

総合研究大学院大学
学融合推進センター教授・センター長
平田光司

慶応義塾大学工学部卒(計測工学)、筑波大学(素粒子論、理学博士)修了、高エネルギー物理学研究所(KEK)でTRISTAN、KEKB加速器の理論研究を行う。総合研究大学院大学では大学院生への総合教育を推進するとともに、科学技術社会論学会の立ち上げに関わる。先導科学研究科では生命系の学生に対する「科学と社会」の副論文(必修)の指導を主に行っている。

※このセミナーは、大学院講義「科学と社会」の一環です。

2013年度大学院講義「科学と社会」 集中講義形式

12/20
(金)

- 13:00~16:00 合同A棟204号室
ワークショップ①『トランスサイエンス入門』
- 16:30~18:30 共通講義室4(合同A棟303号室)
特別講演『科学の不定性と巨大科学-高エネルギー加速器を例に』
- ◆19:00~21:00 懇親会(希望者, 要申込)

12/21
(土)

- 9:30~12:00 合同A棟205号室
ワークショップ②『さまざまなトランスサイエンス』

興味のある方はどなたでも
ご参加いただけます。

お問い合わせ
hondou@mail.sci.tohoku.ac.jp(本堂) (内線5823)

※単位取得希望で未登録の学生は、大学院教務係に相談して手続きをしてください。
開講スタイル・単位: 1学期1単位 担当教員: 本堂 毅准教授 集中講義形式

詳細
<http://web.sci.tohoku.ac.jp/hondou/3-kagakuto.html>
または「東北大 本堂」で検索